

## コラム① 委員のみんなに好きな動物を教えてほしい

### ～東京都自立支援協議会の情報保障の取組～

東京都自立支援協議会（以下、「都協議会」といいます。）は、令和5年度に第8期を迎え委員の改選が行われました。新たに知的障害のある当事者として着任した高橋薫（たかはしかおる）委員をご紹介します。

高橋委員は、自宅から豊島区立目白福祉作業所に通所していて、趣味は文房具集め、習い事はマリimba、音楽が大好きです。第一回本会議を開催する前に、協議会当日の資料や進行について事前説明に伺ったときに、高橋委員から、「話しやすいから、委員のみんなに好きな動物を教えてください。」という提案がありました。都協議会では、この提案を取り入れ、第1回本会議（令和5年6月5日開催）のグループ討議の冒頭で委員の皆さんから好きな動物を発表してもらいました。

新メンバーでの初顔合わせとなったこの日、好きな動物の話題はアイスブレイクとして効力を発揮し、お互いの顔と名前を一致させ、意見を言いやすい雰囲気生まれました。高橋委員のアイデアが協議会活動を活性化させたのです。

これまでも都協議会では、知的障害のある方に委員として活躍してもらうため、当事者と支援者を共に委員に選任する、会議前に事前説明に行く、行政説明は短くグループ討議の時間を長くとり、資料にはルビを振るなど、の取組を行ってきました。

今年度は、東京都自立支援協議会セミナーでの厚生労働省の説明資料について、ただルビを振るのではなく、スライドごとに内容を分かりやすく要約し、その要約にルビを振るという資料を作成しました。

また、第2回本会議（令和6年2月22日開催）では、第1回の取組をさらに進めて、座席配置を副会長を中心とした3つのグループに分け、それぞれのグループには好きな動物として名前が挙がっていた「いぬ」「ペンギン」「からす」というネーミングをしました。さらに、卓上名札やペットボトルにもグループの目印をつけるなど、委員がリラックスして参加できる工夫をこらしました。その効果もあってか、委員からはたくさん意見が出され、用意したホワイトボードに書ききれないほどになりました。

当事者の参画と情報保障は、協議会運営では欠かせない要素で、絶対的な正解があるものではありません。都協議会では、当事者委員の意向を取り入れ、さらにICTの活用も視野に、取組を深めていきたいと考えています。この冊子の中にも、地域自立支援協議会での工夫が掲載されていますので、ぜひご活用ください。互いに知恵を出し合っ、よりよい協議会活動につなげていきましょう。



第2回本会議で用意した「いぬ」チームの卓上名札とペットボトル